

## 本時のねらい

お金を支払う場面で硬貨の出し方を選択する活動を通して、10のまとまりに着目することができる。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

本時では、実際の買い物場面におけるお金の出し方を考えることを通して、前時までに学習した数のまとまりの習熟を図る。学習支援アプリ（ロイロノート）を活用し、財布からお金を出したり、コイントレイに並べたりすることを、タブレット上で実際に操作することで買い物の場면을想像しやすくなり、より日常生活に近い形で考えることができる。これまではノートにお金の図（①⑤⑩など）を書いて考えていたところを、イラストを使って行うことができる。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット端末（iPad）
- ・授業支援アプリ（ロイロノート）
- ・電子黒板
- ・プレゼンテーションソフト（Keynote）
- ・Apple TV

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○前時までのふりかえりとして、野菜の値段（2けたの数）を全員で読む。	・Keynoteを使って、八百屋さんの野菜の陳列棚を電子黒板に掲示する。
展開 (35分)	○本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">23円のトマトを1つかいます。 どうやってお金をだしたらよいでしょうか？</div>	・児童が問題の場面をイメージしやすいように、電子黒板で、イラストを使って課題を提示する。
	○どのコインを使ってお金を出したのか、自分の考えをワークシートに書いて、ロイロノートの提出箱に提出する。  ○考えを発表して全体で共有し、コインの枚数が1番少ない出し方を考える。（10円玉は、1円玉が10枚と同じ意味であることを理解する。）  ○練習問題に取り組む。 ・他の野菜を買った場合、コインの枚数が少ないお金の出し方はどのようにするのか考える。	・ロイロノートで、ワークシートを児童に送り、画面上でお金をコイントレイへ移動させる。  ・児童の考えが分かりやすいように、電子黒板に映して発表させる。  ・ロイロノートで練習問題に取り組み、日常生活の中でも、10のまとまりが役立つことに気づかせる。
まとめ(5分)	○ふりかえりシートに書いて、ロイロノートで提出する。	・ロイロノートで、ふりかえりシートを児童に送り、記入後に提出箱に提出させる。

## 1人1台端末を活用した活動の様子



電子黒板で野菜の値段をみんなで確認している場面



ロイロノートで財布から、コイントレイにお金を移動させている場面



ふりかえりを共有して、10のまとまりが使えることに気づく場面

## 児童生徒の反応や変容

児童は10のまとまりをつかって数えることが大事だということは既に知っているが、実際にタブレット上でお金を払う操作をすることで、数のまとまりを使うことの便利さを実感できた。さらに、数のまとまりを身近な生活の中で使うことに気づくことができた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

Keynoteを効果的に使うことで、復習や課題提示などがスムーズで、児童の学習への動機づけができる。また、実際に一人ひとりがお金を財布から出す操作はとても効果的で、野菜の値段を変えると、何度も練習問題を解くことができる。